

報道関係者各位

▶▶ プレスリリース

2021年11月17日  
株式会社恵那川上屋

恵那・中津川地域の栗生産者と農業の未来を明るくするため

## 菓子屋発！お菓子のように甘いトマトの 生産・販売が11月からスタート

和洋菓子の製造販売をしている株式会社恵那川上屋（本社／岐阜県恵那市大井町2632-105、代表取締役／鎌田真悟）は、11月1日より、お菓子のように甘い「おかしなトマト」の生産・出荷をスタートさせました。



### 地域の未来と農業を守るため、菓子屋がトマトづくりにチャレンジ

東濃エリアの伝統的な素材・食文化・風景を守るために、恵那・中津川地域の生産者の皆様とともに栗づくりに取り組んできた恵那川上屋。地域の自慢である栗を「恵那栗」として大切に育て、ブランド化することで、ふるさとの栗づくりを支えて参りました。

しかし、近年は少子高齢化による後継者不足や、新規就農者の減少などにより、地域の農業は困難な状況に直面。栗生産者も例外ではなく、このまま何も手を打たなければ“栗の里”と呼ばれた恵那・中津川地域から栗が消えてしまうかもしれません。ひいては、たくさんのおいしい素材が消えてしまうことも危惧されています。

そんな状況は、誰も望んでおりません。だからこそ、弊社は地域の農と栗生産者のために、新たなモデルづくりにチャレンジしました。それが“お菓子のように甘い”トマトです。

### 恵那川上屋がトマトを選んだ理由

恵那・中津川地域の名物である栗は、秋の収穫期こそ多忙を極めますが、秋以外のシーズンは比較的手がかからない農産物です。言い換えれば、冬から夏にかけては栗生産者の手が空くということ。弊社はこの農閑期に栽培・収穫ができる冬春トマトに着目し、トマトの生産・販売に乗り出すことにいたしました。

栗とトマト、時期をずらして2つの農作物をつくるロールモデルが成功すれば、生産者の収入は安定します。さらに、このモデルが魅力的になればなるほど、若年層や女性を中心とした新規就農者が増えるに違いありません。その結果、栗の生産量も増えて、トマトも地域の新たな“自慢”になるはずで

## お菓子のように甘い「おかしなトマト」が誕生！

弊社は次なる恵那・中津川地域の名物を目指すため、単なるトマトづくりは行いません。目指したのは、安心・安全でお菓子のように甘いトマト。恵那・中津川地方の気象条件を生かした栽培方法でトマトの糖度を高め、さらに水分ストレスを与えて、うま味と甘味を凝縮。完熟してから収穫することで、お菓子のように甘いトマトを出荷します。そのほかにも減農薬に徹するなど、こだわりが満載。菓子屋がつくるお菓子のように甘いトマトを「おかしなトマト」と名付け、11月1日から恵那川上屋で販売をスタートさせました。

### 「おかしなトマト」おいしさのヒミツ

- ① トマト栽培に優位な気象条件（激しい昼夜の寒暖差・長い日照時間）
- ② 水分ストレスをかけて、うま味と糖度を凝縮
- ③ 完熟してから収穫&即日出荷
- ④ 糖度センサーで、高糖度（7度以上）トマトだけを選果



## 「地域の未来と、生産者を守る」ための新しいチャレンジに恵那市も賛同

上記の取り組みに本腰を入れるべく、弊社はグループ内に新しい農業法人「恵那山ファーム」を設立。お菓子の素材探しの旅で繋がったご縁を頼り、おいしいトマトのつくり方を学んできました。そして、恵那市の賛同を得て、補助金を取得。50a（アール）のビニールハウスを建てて、今夏より約3万本のトマトを植栽し、11月から収穫・出荷を開始しております。

## 小坂喬峰恵那市長のトマトハウス視察が決定！

■ 【日時】 12月2日（木）10時～

■ 【場所】 恵那山ファームトマトハウス

（岐阜県恵那市大井町 2632-105 第一ハウス／恵那川上屋 恵那峡店近く）

※弊社代表・鎌田との意見交換なども行います。ぜひ取材・撮影にお越しください。

「おかしなトマト」やトマトハウスなど、媒体掲載用の画像データもございます。  
貴媒体でのお取り扱いをご検討くださいますよう、お願い申し上げます。

### 【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

株式会社 恵那川上屋 Tel：0573-25-2470

マーケティング部：井戸（E-Mail / ido@enakawakamiya.co.jp）

片山（E-Mail / yu.katayama@enakawakamiya.co.jp）